

# 2019年度入学試験問題出題のねらい・解答例 (推薦入学選考)

中村学園大学短期大学部〔キャリア開発学科〕

## 【小論文】

### 〈出題のねらい〉

「サンデーモーニング」(TBS系)のコメンテーターで、元国連職員の大崎麻子氏が国際会合、国際比較調査、日本国内での取り組みを踏まえて、あらゆる世代の女性に書いた『エンパワーメント 働く女子が身につけたい力』から、「WORK(働く・活動する)」の新たな定義について書かれた章からの抜粋を設問にした。

WORKを単に「職業」や「収入源」といった「経済活動」として限定的に捉えるのではなく、「人間が幸せに生きていくために必要な活動」として幅広く捉えようと説く。そのためには「4つのWORK」が必要であると紹介する。少子高齢化が進む日本において、男性も女性も、どのように「ワーク」と「ライフ」を両立させていくのか、マネジメントするのか。「ワークライフバランス」は、誰もが考えるべき今日的課題である。そのような現状を、若者である受験生たちは、どのように理解し、意見を持っているのかを知りたいと思い、本出題文を選んだ。合わせて、受験生の読解力、表現力、語彙力などを見ることにした。

### 〈講評〉

#### 問題一. 漢字の書き取り

漢字の書き取りは、一人平均2.4問の正解率であった。例年に比べ、出来が悪いように思われる。特に、「捉える」は正解者が2名、「捕らえる」と間違える受験生が多く、なかには手偏(てへん)でなく人偏(にんべん)になっている受験生もいた。また、「交わされる」も正解者が4名と、こちらはおくり仮名の「わ」をいれていない受験生が多く見られた。続いて「概念」、そして「担う」は約半数の受験生が正解し、5問目の「納税」は全員が正解した。

おくり仮名を問う問題に苦戦するという結果は、スマホでの変換文字に慣れていて、一から文章を書く機会が減っていることの表れであると思われる。手紙や葉書など短文から始めて、文章を書くという習慣を身につけて欲しい。

#### 問題二.

例年のように、設問は「この文章を読んで、あなたの自由な考えを」というものであった。当たり前ではあるが、作者の主張、意図をくみ取りとったうえでの、自由な意見であって、何を書いてもいいというわけではない。一冊の本からの抜粋であるため、作者の意図するところを、全て理解することは難しいかもしれないが、まず、出題文での作者の考え方を整理して、そのうえで自分の意見を発展させていくことを求めた。こうするには、日ごろから新聞や雑誌、またテレビなどのニュースから時事問題に興味を持ち、そのうえで自分の意見を持つておくことが必要であると考えた。また、男女問わず、幅広い年齢層の方々との会話も大切にして欲しい。

題は、新聞の「見出し」と同じくとても重要なもので、内容のエッセンスを題に凝縮することもできるため、内容に合った題には加点をした。しかし、内容とそぐわない題も見られたのは残念である。内容に適する題をつけるためにも、自分の意見をしっかりとまとめておくことを求めたい。